

HACHIMAN
Kawara-ban
HONOBONO-Tsushin

八幡堀と町衆の434年の道のり

通信 八幡堀界隈 瓦かわら版

2019 Vol.51

手漕ぎ和舟

ご予約は
0748-36-5115

情緒ある手漕ぎ和舟でゆったり
船頭がご案内する八幡堀めぐり



八幡堀は琵琶湖から引いた八幡町の外に巡らし、八幡山の麓を八幡堀と壘で囲み、その中に居館や武家屋敷を配し、防衛と同時に運河として重視しました。長さ6kmに及ぶ八幡堀は廃城後も明治時代、大正時代まで商工業の動脈として役割を果たしていました。堀幅11.5m、深さ1.4mの規模を持ち、琵琶湖から直接舟入できるように、秀次時代には往來する舟は八幡に立ち寄りなければならぬ掟を出しました。八幡堀は回船業を営むことができた親浦の一つで、物流拠点として琵琶湖では大津浦と堅田浦の三カ所だけでした。(八幡堀は一級河川)

町並みは横筋4通り、縦筋12通りを中心に基盤目状に作りしました。他の城下町は町筋をジグザグにし防備能力を高めるのに対して、八幡山城下町は、商業振興第一主義に切り替えた平和的な政策であったと考えられています。東から二筋を大工町、鍛冶屋町、置屋町、鉄砲町などの職人の居住区とし、三筋目から西へ十筋を、仲屋町筋、為心町筋、魚屋町筋、新町筋、小幡町筋などの商人区としました。これら町名も安土城下町との共通町名があり、これも安土城同様中世の特権商人組織でありました。座、市を外し八幡市楽座としました。築城した翌年天正十四(1586)年6月に控書を発布しました。八幡市楽座令は、13条からの条文で成り立っており、安土市楽座令と酷似しています。両条文は細かな違いはありますが、後日この地より近江商人が出て全国に発展することになり、この時の八幡市楽座令が基礎を築いたといえます。(城下町の一部は、八幡堀とともに新町や永原町など重要伝統的建造物群保存地区として選定)

豊臣秀吉は八幡山城を安土城に替わる近江の国城として、豊臣秀吉自身が普請の指揮をとり、山頂の城郭と麓にある居館、そして安土城から移築した城下町の造営に力を注ぎました。しかし、八幡山は安土山と違い険しい山で、山の斜面を充分活用できず麓の居館が城の中心となりました。(ここから多数の桐紋の金箔瓦が出土しています。金箔瓦には安土城、大坂城とよく似た形状の巴紋瓦もあります。)

豊臣秀吉の八幡山城の狙いは、豊臣秀次の宿老に田中吉政を配し、水口岡山城に中村一氏、長浜城に山内一豊、佐和山城に堀尾吉晴、竹ヶ鼻城に柳直末を配して、近江国を軍事的、経済的要衝として万全な体制にすることにありました。

豊臣秀次は18歳で入城しましたが、天正十八(1590)年に尾張国清洲城へ移封。代わって京極高次が2万8千石で入城しましたが、文禄四(1595)年秀次事件で豊臣秀次は関白職に有りましたが高野山で自害させられ、聚楽第と同時期、築城から10年で八幡山城は廃城となり、京極高次は大津城へ移りました。

現在、本丸跡には秀次の母・豊臣秀吉の姉の日秀尼(智)が開基の村雲門跡瑞龍寺(後陽成天皇に賜った地、京都堀川)が昭和38(1963)年に移転されています。

八幡山城の特徴として山城部分とは別に築かれた南山麓の居館部分があることです。居館曲輪には大型の礎石建物跡と考えられる礎石列、それに伴う溝、建物の遺構が窺われていた金箔瓦が出土しており、柱間は約2mになるもので、ここには書院造の御殿が建っていたと推定されています。また居館には一直線に伸びる大手道があり、安土城の2倍に達する約270mの距離があります。昭和42(1967)年に山頂の本丸から山麓の居館部分に集中豪雨によって大規模な土砂崩れが発生しています。

現在の八幡堀は昭和45年代には埋めて公園と駐車場にする計画が進んでいましたが「埋めたときから後悔が始まる」と近江八幡青年会議所と住民運動によって八幡堀は再生されました。今では時代劇の撮影に使われるなど名所の一つとなっています。

八幡開町の日を10月15日に定め豊臣秀次公を顕彰します。
10月12日の八幡堀まつりには子ども武者行列があります。
10月15日には「秀次談義」を開催いたします。NPO法人秀次倶楽部

天正十(1582)年の本能寺の変と山崎の戦いの後に完全に焼失した安土城は、清洲会議を経て三法師(織田秀信)を城主に、織田信雄を後見人として再興することになっていました。しかし翌、天正十一(1583)年の賤ヶ岳の戦いで以降、政情が豊臣秀吉の天下へ移行し、天正十三(1585)年の紀州攻め、四国征伐で副将格で戦陣に入り武勲を立てた豊臣秀次は近江八幡43万石(豊臣秀次は20万石、宿老に23万石)を与えられ、八幡山城を築き、安土城の建物や城下町を移築しました。八幡山城(はちまみやまじょう)は、近江八幡市宮内町周辺に存在した日本の城(山城)です。豊臣秀次の居城として知られています。独立丘鶴翼山、八幡山(標高283m、比高100m)の南半山の上に築城されました。急峻な山城で築城当時は東西に内湖があり、南の平野部に城下町を配し、安土城の町民を移して町づくりを始め、近隣の町村からも移住を促しました。

八幡堀は琵琶湖から引いた八幡町の外に巡らし、八幡山の麓を八幡堀と壘で囲み、その中に居館や武家屋敷を配し、防衛と同時に運河として重視しました。長さ6kmに及ぶ八幡堀は廃城後も明治時代、大正時代まで商工業の動脈として役割を果たしていました。堀幅11.5m、深さ1.4mの規模を持ち、琵琶湖から直接舟入できるように、秀次時代には往來する舟は八幡に立ち寄りなければならぬ掟を出しました。八幡堀は回船業を営むことができた親浦の一つで、物流拠点として琵琶湖では大津浦と堅田浦の三カ所だけでした。(八幡堀は一級河川)

町並みは横筋4通り、縦筋12通りを中心に基盤目状に作りしました。他の城下町は町筋をジグザグにし防備能力を高めるのに対して、八幡山城下町は、商業振興第一主義に切り替えた平和的な政策であったと考えられています。東から二筋を大工町、鍛冶屋町、置屋町、鉄砲町などの職人の居住区とし、三筋目から西へ十筋を、仲屋町筋、為心町筋、魚屋町筋、新町筋、小幡町筋などの商人区としました。これら町名も安土城下町との共通町名があり、これも安土城同様中世の特権商人組織でありました。座、市を外し八幡市楽座としました。築城した翌年天正十四(1586)年6月に控書を発布しました。八幡市楽座令は、13条からの条文で成り立っており、安土市楽座令と酷似しています。両条文は細かな違いはありますが、後日この地より近江商人が出て全国に発展することになり、この時の八幡市楽座令が基礎を築いたといえます。(城下町の一部は、八幡堀とともに新町や永原町など重要伝統的建造物群保存地区として選定)

豊臣秀吉は八幡山城を安土城に替わる近江の国城として、豊臣秀吉自身が普請の指揮をとり、山頂の城郭と麓にある居館、そして安土城から移築した城下町の造営に力を注ぎました。しかし、八幡山は安土山と違い険しい山で、山の斜面を充分活用できず麓の居館が城の中心となりました。(ここから多数の桐紋の金箔瓦が出土しています。金箔瓦には安土城、大坂城とよく似た形状の巴紋瓦もあります。)

豊臣秀吉の八幡山城の狙いは、豊臣秀次の宿老に田中吉政を配し、水口岡山城に中村一氏、長浜城に山内一豊、佐和山城に堀尾吉晴、竹ヶ鼻城に柳直末を配して、近江国を軍事的、経済的要衝として万全な体制にすることにありました。

豊臣秀次は18歳で入城しましたが、天正十八(1590)年に尾張国清洲城へ移封。代わって京極高次が2万8千石で入城しましたが、文禄四(1595)年秀次事件で豊臣秀次は関白職に有りましたが高野山で自害させられ、聚楽第と同時期、築城から10年で八幡山城は廃城となり、京極高次は大津城へ移りました。

現在、本丸跡には秀次の母・豊臣秀吉の姉の日秀尼(智)が開基の村雲門跡瑞龍寺(後陽成天皇に賜った地、京都堀川)が昭和38(1963)年に移転されています。

八幡山城の特徴として山城部分とは別に築かれた南山麓の居館部分があることです。居館曲輪には大型の礎石建物跡と考えられる礎石列、それに伴う溝、建物の遺構が窺われていた金箔瓦が出土しており、柱間は約2mになるもので、ここには書院造の御殿が建っていたと推定されています。また居館には一直線に伸びる大手道があり、安土城の2倍に達する約270mの距離があります。昭和42(1967)年に山頂の本丸から山麓の居館部分に集中豪雨によって大規模な土砂崩れが発生しています。

現在の八幡堀は昭和45年代には埋めて公園と駐車場にする計画が進んでいましたが「埋めたときから後悔が始まる」と近江八幡青年会議所と住民運動によって八幡堀は再生されました。今では時代劇の撮影に使われるなど名所の一つとなっています。

八幡山下町十三カ条の控書/所蔵国立資料館
参考資料/ウィキペディア



江戸時代の町並みの面影を残す新町通りの歴史民俗資料館の隣りに一軒民家をはさんで旧西川家住宅があります。典型的な近江商家の面影を残すこの家は、店の部分と居宅部分に分かれており、突き出した座敷玄関を持っているのが特徴です。

壁を黒く塗り、トガ材を使った京風建築の2階建家屋は、どっしりとした構えで、江戸時代中期頃の建築と推定されています。見かけより奥行きが広く、庭に植えられた木々の周りに飛び石が巡らされ、地面には苔が生えています。近江商人の隆盛ぶりを偲ぶことができ、国の重要文化財に指定されています。

旧西川家住宅 9月1日(日)~9月29日(日)

【休館日】 月曜日・祝祭日の翌日



資料館竹行灯教室/曾根田講師

竹行灯とは文字通り、竹で作った照明のことで、作品は全て地元八幡で採れた孟宗竹を使用して作られています。孟宗竹を厳選して制作した無垢の竹行灯です。

切り出しから乾燥、加工、仕上げまで、すべての工程に心を込めて丹念に手作業で仕上げた逸品です。

作り手のそれぞれの個性と、何よりも日本の情緒を感じただけです。

近江八幡市立資料館
(郷土資料館 歴史民俗資料館 旧西川家住宅)
滋賀県近江八幡市新町2丁目22
TEL (0748) 32-7048 FAX (0748) 32-7051

【開館時間】 9:00~16:30 (入館は16:00まで)
【入館料】 一般 ¥500 小・中学生 ¥250 (3館共通) 団体(10人以上) 一般 ¥400 小・中学生 ¥200

【休館日】 月曜日・祝祭日の翌日・年末年始(なお、5、6月と10、11月は無休)

【旧西川家住宅入館料】 一般 ¥300 小・中学生 ¥150
【指定管理者】 株式会社ガんでんジョイナス



竹行灯展



café & shop SHINMACHI

資料館イベント広場内
近江八幡100%味わえます!
葎(ヨシ)のシフォンケーキがおすすめです!

¥700 (ケーキセット)

近江八幡市立資料館内
"入館料はおりません"

文化伝承館(左義長会館)横よりお入りください!
営業時間: 10:00~16:00
定休日: 月曜日(観光シーズンは不定休)
〒523-0871 滋賀県近江八幡市新町2丁目 資料館内
カフェ&ショップ 新町 (Chief) 090-6247-0831

ギャラリースペース新町浜の姉妹店です TEL 0748-36-5115

クーポン特典
ケーキセット1000円割引
令和元年9月末日まで

赤の他人井 和風 ローストビーフ丼

近江牛すきやき

お食事された方に、ソフトドリンク
《ウーロン茶《コーラ》オレンジジュース》
1杯サービス
(1枚で4名様まで)

クーポン有効期限/令和元年・9月末日迄有効

〒523-0837 近江八幡市大杉町24
営業時間/11:00~15:00 (ラストオーダー)
定休日/水曜日 TEL 0748-32-5533



お誕生日・記念日 花束プレゼント (9月の方) 3名様

※必ずお誕生日を明記下さい

花王アタック1キロ8個入り (1ケース) 5名様

[トマトカード番号の記入をお願いします]

- * 企画展 龍谷の至宝～時空を越えたメッセージ～
龍谷大学 龍谷ミュージアム 9月11日迄 20名様
- * 京都市美術館所蔵品展 動物パラダイス
美術館「えき」KYOTO ジェイアール京都伊勢丹7階隣接 9月16日迄 30名様
- * 京都大原の庭とキッチンから ベニシアさんの手作り暮らし展
大丸ミュージアム〈京都〉大丸京都店6階 9月23日迄 30名様
- * 百花繚乱 ニッポン×ビジュツ展 京都文化博物館 9月29日迄 20名様
- * 没後60年 特別展 北大路魯山人 古典復興
—現代陶芸をひらく— 滋賀県立陶芸の森陶芸館 12月1日迄 30名様
- * ガーデンミュージアム比叡 入園引換券 9月30日迄 30名様
- * 京都新聞スクラップブック「星をみつめて」 10名様

ご希望の方は郵便番号・住所・氏名・電話番号・希望の品名を記入の上、
官製はがき又はFAXで販売所まで、ご応募下さい。抽選でお送りします。
締切 花束 8月31日迄
洗剤、チケット等
当選者の発表は発送をもって代えさせて
頂きます。予めご了承ください。

トマト倶楽部 応募先 ▶ 〒523-0867 近江八幡市魚屋町元9 京都新聞近江八幡販売所 TEL 32-2743 FAX 32-3504

地域共生型(子育て・障害福祉・介護福祉)ボランティア養成講座受講生募集 先着50名程度

- ◆募集期間 令和元年9月1日～令和元年9月30日
- ◆募集対象者(高校生以下については対象が制限されます)
子育て(保育園)…高校生以上
障害福祉施設 …小学生以上
介護福祉施設 …年齢制限なし
- ◆講座開催日(詳細は右に記載)
開会日(座学研修)令和元年10月12日(土)
実体験研修(自由選択)
令和元年10月15日(火)～31日(木)

地域共生型ボランティア養成講座の概要

◆開講式 10月12日(土) 14:00～16:00:ひまわり館

- オリエンテーション
おか・きた安心ネットの説明
ボランティア養成講座開催の主旨
- 座学研修
・認知症を学ぶ
・障害福祉を中心に人権を学ぶ
- ビデオ鑑賞(30分程度)
子育て・障害・介護福祉また、実践研修の各施設を映像を通して学び、ボランティアのイメージを高める
- 実践研修希望施設申請書の提出
★受講生に対し、15日から31日までの実践研修受講計画書を送付

◆実践研修 10月15日(火)～31日(木)

実践研修(ボランティア保険に加入します)
それぞれの希望する施設、希望時間帯で研修実施(現地に集合現地で解散)
何力所でも自由に実学研修を積む

◆閉講式 11月初旬(開会日に周知) 14:00～16:00

- 閉講式 修了証書・記念品の贈呈
- 情報交換会 施設職員等と交流会
- おか・きた安心ネットとしてボランティアを組織する予定
参加希望者は登録する
今後、ボランティアポイント制度を構築し、地域の商業と連携する予定

おか・きた安心ネット

◆応募方法

- 応募用紙により、事務局(社会福祉法人サルビア会・特別養護老人ホーム水葦の里)に応募する。(FAX可:0748-32-4630)
- 応募用紙は主催7団体の施設に有ります。申し込みは各施設に持参する。
- 高校生以下については、保護者の承諾が必要。
おか・きた安心ネット
事務局:水葦の里 TEL0748-33-5321 担当:野々村・村井



あなたの
微笑みや
優しい手が
大きな
地域力に
なります!

どんな動機でもぜひ参加ください!
時間がある!暇がある!
ボランティアまでは考えていないが、
福祉を少し学びたい。
生きがい、やりがいを見つけないと
とんねんころか見てみたい
学校で学べないことを学びたい
地元で ボランティアをする前に学びたい

主催:おか・きた安心ネット連携協議会

- 特別養護老人ホーム:水葦の里(社会福祉法人サルビア会) □特別養護老人ホーム:赤煉瓦の郷(社会福祉法人一善会) □小規模多機能型居宅介護:船木・えんの家(社会福祉法人子羊会)
- 認知症対応型通所介護:あっとほーむ(社会福祉法人子羊会) □障害者支援:おうみ作業所(社会福祉法人おうみ福祉会) □障害者支援:障害者支援作業所いきいき(社会福祉法人きぬがさ福祉会)
- 保育園:北里保育園(社会福祉法人至徳会) □保育園:紫雲保育園(社会福祉法人紫雲会) 協力:社会福祉法人近江八幡市社会福祉協議会